

# 小学六年

## 国語

### 解答と解説

1

|    |     |    |
|----|-----|----|
| 問一 | 気   |    |
|    | ま   |    |
|    | ず   |    |
|    | い   |    |
|    | 空   |    |
|    | 気   | 21 |
| 問二 | i   |    |
|    | エ   |    |
|    | ii  | 22 |
|    | オ   |    |
|    | iii | 23 |
|    | イ   | 24 |

(完答)

(完答)(順不同)

|    |   |    |
|----|---|----|
| 問三 | A |    |
|    | お |    |
|    | っ |    |
|    | と |    |
|    | り |    |
|    | B |    |
|    | く |    |
|    | っ |    |
|    | き |    |
|    | り | 25 |
| 問四 |   |    |
|    | エ |    |
|    |   | 26 |
| 問五 |   |    |
|    | イ |    |
|    | エ | 27 |

|    |   |    |
|----|---|----|
| 問六 | ⑤ |    |
|    | ウ | 28 |
|    | ⑧ |    |
|    | エ | 29 |
| 問七 |   |    |
|    | ア | 30 |
| 問八 |   |    |
|    | 長 |    |
|    | く |    |
|    | 続 |    |
|    | い |    |
|    | て | 31 |

|    |   |    |
|----|---|----|
| 問九 | カ |    |
|    | 関 |    |
|    | 係 | 32 |
| 問十 |   |    |
|    | イ | 33 |

2

|    |   |    |
|----|---|----|
| 問一 | 1 |    |
|    | イ | 34 |
|    | 2 |    |
|    | エ | 35 |
|    | 3 |    |
|    | ウ | 36 |
| 問二 |   |    |
|    | エ | 37 |

|    |   |   |   |
|----|---|---|---|
| 問三 |   |   |   |
| 可  | の | い | 堅 |
| 欠  | 機 | 手 | い |
| に  | 能 | の | ひ |
| な  | を | 柔 | も |
| る  | 発 | ら | な |
| と  | 揮 | か | ど |
| い  | す | さ | を |
| う  | る | が | 断 |
| こ  | た | 、 | つ |
| と  | め | ハ | こ |
| 。  | に | サ | と |
|    | は | ミ | が |
|    | 必 | の | で |
|    | 要 | 本 | き |
|    | 不 | 来 | な |

38  
39  
40  
41

(配点)  
 { ①〔問二〕各2点、〔問六〕各3点、他各5点 }  
 { ②〔問一〕各2点、〔問三〕7点、他各5点 } 計150点  
 { ③④⑤各2点 }

|     |
|-----|
| 問十  |
| ウ   |
| 問十一 |
| ア   |

【解説】

1 赤羽じゅんこの『おおなわ跳びません』（静山社）から出題しました。

星川小で長年続く学校行事である「おおなわ大会」が近づく中、少し足が悪くて跳ぶのが苦手な双葉が学級会で「おおなわに出場しない」と言い出しました。これをめぐってそれぞれの立場からいろいろな意見が出ます。様々な意見を聞きながら、双葉が「出たくない」という気持ちと「出てみようかな」という気持ちの間でゆれる様子を読み取りましょう。

問一 B1 抽象化

双葉が「おおなわ大会は出ません」と発言する前は、中休みの練習や朝練についてクラスの意見が半々にわかれ、話し合いが行われていました。この活発な雰囲気は、双葉の発言の後ではすっかり冷めてしまい、2ページ下段では、司会をしていた日直のレナが「なにか意見ありませんか？」とみんなにうながす場面が見られます。その直後の場面で、「わたし」がこのような雰囲気（かき）を「気まずい空気」と表現しています。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字（だつじ）がある場合は不正解とします。

問二 B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 直前では、去年（四年生のとき）のおおなわ大会では、双葉以外にも失敗する人がいたため双葉があまり目立っていなかった、ということが書かれています。直後にはそのように失敗する人が減って、ひっかかる人が目立ってきた、

と書かれています。失敗する人が目立つほどの減り方ですから、エ「ぐーんと」が入ります。

ii 直前・直後で教室が静まっている様子が書かれています。おおなわ大会に出たくないと思っていた人たちが、双葉の発言を受けて「それなら自分も出たくない」と口々に言っていたところへ、タケノコ先生が割って入って「出たくないから出ないって、軽いうものではない」とたしなめています。以上のことから、オ「しーんと」が入ります。

iii 直前には、誰も意見を言おうとせず気まずい空気が流れている様子が書かれています。そんな中、体育委員の三浦舞花が状況を打ち破るようにはきはきと意見を述べる場面です。舞花は自信たっぷりに発言していますから、手を挙げるときも自信満々に手を挙げていると考えられます。したがって、イ「すつと」が入ります。

問三 A2 知識 関係づけ

文の内容に合うように「○つ△り」という形の言葉を入れる問題です。1～5の□に入る言葉が辞書に出てくる順に並ぶ、という条件に注意しましょう。Aは性格を表す言葉で「うっかり」「きっかり」の間に入るということを考え、「おっとり」が入ります。Bも同様に前後とのかねあいを考え、「くつきり」が入ります。

問四 B1 関係づけ 比較

直前に「だったら」とあります。これは、タケノコ先生がことあるごとに「勝ち負けは関係ない」と言い、今回もそう言っ

いることを受けての表現です。したがって、③には「勝ち負けを強調しないような形にすればいいのに」という内容が入ることがわかります。したがって、エが正解となります。

問五 B2 理由 比較

舞花は双葉に「跳ぶのが不安なら、おこなわをまわす係をやればいい」と提案し、それに賛同する拍手がクラス全体に広がっています。ところが、双葉はすでに今日の中休みにまわす係に挑戦し、失敗しています。それを見ていた「わたし」は、この流れでは結局双葉がづらい思いをすることになるだろうと考え、この状況に不安を覚えていきます。したがって、イが一つ目の正解となります。また、なんとかして双葉を参加せよとするクラスの空気について、「わたし」は4ページ上段で疑問に感じています。このことは、——線⑧の直前に「双葉にがんばることを押しつけて」と表現されています。したがって、エが二つ目の正解となります。ア「森くんや陽太が気分を害してしまうのではないか」ウ「子どもは大人の思い通りに動かされているだけなのではないかと気づいた」、オ「優勝できる可能性は確実に下がってしまうのではないか」がそれぞれ誤っています。

問六 A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。まずは辞書の意味を知っていることが重要ですが、辞書の意味を意識したうえで、その文脈ではどのような意味になっているか、ということも合わせて考えましょう。

⑤ 「うながした」は漢字で「促した」と書きます。この字を

使って「催促」「促進」「促成」などの熟語が作れます。誰かに対して何かをするように仕向ける、という意味の言葉です。したがって、ウが正解となります。

⑧ 「胸をなでおろした」はそれまで抱えていた不安なことが解消されてほっとする様子を表す言葉です。したがって、エが正解となります。

問七 B1 具体化 比較

双葉の発言にある「それ」とは、直前で双葉自身が言っている「まわすのはうまくいかなかったから、がんばって跳んでみます」を指しています。直前の場面では言いよどんでいるものの、ここでは「硬い表情ではなく、明るい笑顔」になっていることから、どうしようか迷う気持ちにいったん決着をつけ、思い切って発言していることがわかります。したがって、アが正解となります。イ「なわをまわす係をやる」、ウ「自分にはまわす係の方が合っているのではないか」、エ「自分に嫌気がさし」がそれぞれ誤っています。

問八 B1 具体化 関係づけ

2ページ上段で双葉の発言を受けて「自分も出たくない」と言い出す人が続いた場面、タケノコ先生は「出たくないから出ないって、軽いいうものではない」とたしなめています。また、3ページ上段で双葉をどうにかして参加させようとする舞花の提案がクラスに受け入れられたときは、笑顔になっています。これらのことから、タケノコ先生は学級会の場面で「なんとか全員がおこなわ大会に参加する方向に持ってい

きたい」という考えを持っていると考えられます。最終的には双葉が参加する意思を示し「だいじょうぶです」と言ったことで、自分の意図通りの結果になってほっとしているのです。空らん直後に「おこなわ大会」とあることから、タケノコ先生がおこなわ大会をどのようなものと位置づけているかがわかる表現を探します。すると、**ii**の直前に「おこなわ大会は、長く続いていいる学校行事で全員参加になっているぞ」という発言が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問九

### B1 関係づけ

双葉と「わたし」が下校しながら会話している場面、双葉は最近家にやってきた保護ねこと、元から家にいた先住ねこのことについて話しています。双葉は「ねこにもねこ関係があるんだよ。人間に人間関係があるように」と発言しています。「ねこ関係」とは、先住ねこがいばつていて、保護ねこはそれをおそれてケージからあまり出てこない、という関係のことです。「わたし」は学級会のときの舞花の発言を受けて双葉が「がんばります」と言ったことについて、リーダーシップのある子にさそわれればやるとしか言えないだろう、と考えています。ちょうどその関係が先住ねこと保護ねこの関係を思い起こさせるような形になっています。以上のことから、「力関係」が入ります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問十

### B1 具体化 比較

登場人物の人物像・性格をつかむには、その人物に集中して発言（何を言ったか）と行動（何をしたか）を確認していきましょう。

「わたし」は学級会の場面で、勝ち負けがつくような競技で競わせておきながら「勝ち負けは関係ない」と言う先生（おとな）に不信感を抱いています。ただし、その考えを人前で発表するような積極性は持ち合わせておらず、むしろ「へんに波風を立てないほうが、小学生ライフは平和なんだ」と考えています。以上のことから、イが正解となります。ア「自分の意見を押し通す人がきらい」、ウ「自分の意見を持たないように」、エ「ごまかさずに向き合って解決しようとする」がそれぞれ誤っています。

## 2

岡田美智男『弱いロボット』から考える——人・社会・生きること（岩波書店）から出題しました。

昨今、人間の生活を便利にするような新しいロボットやシステムが次々と開発されています。それらのロボットやシステムが人間から仕事や人間らしさを奪う、という議論もあります。筆者は情報科学、認知科学の研究者として（弱いロボット）の研究に携わる立場から、利便性を最重視したこれまでの研究開発に疑問を投げかけ、ロボットとの関わりをふくめた人間としてのあるべき生き方について述べています。

## 問一

### B1 関係づけ 比較

空らんには当てはまる接続詞を考える問題です。前後関係に着目し、それぞれのつながり方をおさながら考えていきます。

しよう。

《1》の前には、レストランが「張りつめた場所」だったことが書かれています。それに対し後には、「注文をまちがえるかも」というスタッフの「弱さ」をさらけ出したことで、雰囲気が一変したことが書かれています。前後の内容が反対になっていますから、イ「ところが」が入ります。

《2》の前には、「この説明じゃ、誰も理解できないだろうなあ」という講義があつてもいいのではないか、という内容が書かれています。授業をする先生たちがあまりに面倒見よく準備しすぎて、学生が自分たちから豊かな学びを生み出しにくくなっていることに對しての筆者の提案です。後には「ハラハラした感じの講義はどうでしょう」と、また違った形で現状を打破するような講義を提案しています。統一された基準のもとで別々のものから選ぶとする形になっていますから、エ「あるいは」が入ります。

《3》の前には、イヴァン・イリイチという人の唱えた「二つの分水嶺」について述べられています。特に第二の分水嶺である「次第に利便性の高い道具やシステムに頼るなかで、いつの間にか隷属していた」という内容について、後で「自動運転システム」という具体例を持ち出して説明しています。したがって、ウ「たとえば」が入ります。

## 問二

### B1 理由 比較

お客さんたちは、——線①の直後に書かれているように「お手伝いする子どもたちの様子をやさしく見守るように」ロボットの仕事ぶりを見て、ぶつからないように自ら道を譲るなどして協力さえています。この様子と似た内容は、7ページ

上段の「注文をまちがえる料理店」で紹介されています。この二つには、お客さんとスタッフ（ロボット）が、お互いの立場を越えて助け合い、心地よい雰囲気を作り上げているという共通点があります。したがって、エが正解となります。ア「自分たちを満足させるために一生懸命作業をしてくれることに安心感がある」、イ「自分たちの好きなように配膳することで充実感を得る」、ウ「自分たちが助けてあげているという優越感」がそれぞれ誤っています。

## 問三

### B2 具体化 推論

手の弱さとは何か、そしてその弱さがどのような経緯で強みに変わるのか、ということをも「必要不可欠」という言葉を使って説明します。手の弱さについては、8ページ上段の「わたしたちの柔らかな手では、堅いひもなどを断つことは出来ません」にまとめられています。ところが、「弱さ」であるはずの手の柔らかさは、ハサミの「机の上に置かれただけでは、本来の機能を発揮できない」ない特徴を補うためには必要不可欠なものです。手が柔らかいからこそ、自在に動いてハサミでいろいろな作業ができるというわけです。以上の内容を盛りこんでまとめましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問四

B1 具体化 関係つけ

——線③をふくむ一文には「いわゆる、カスタマーハラスメントなどは、その延長にあるものでしょう」と書かれています。ここまでの文章で、人間に便利なものを「提供する側」と「提供される側」の間の役割にしっかりと線が引かれて区別された場合、提供される側がいつの間にか要求水準を高めてしまうものだ、ということが書かれています。それが行き過ぎ、お客さんがお店の側に必要以上の要求をしてしまうことがいわゆる「カスタマーハラスメント」につながるのだ、ということです。空らん直前には「サービスの受け手が提供者への共感を失い」とあることから、受け手がしてしまうこと、すなわちいつの間にか要求水準を高めてしまうことに当たる内容で、十五字の内容を探します。この段落の冒頭<sup>ぼうとう</sup>に「このことは、人とロボットとの関係に限られません」とあることから、人とロボットの関係においても同じようなことが起こっていることがここより前に書かれているだろうと考えることができます。これらのことを念頭に置いて前の部分を探すと、8ページ下段に「『もっと、もっと』と要求をエスカレートさせてしまう」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五

B1 関係つけ 比較

一つ目の④の前に「それ」という指示語があります。これは、先生たちが懸命に準備してもなお、学生側から「もっと大きな声で!」「もっとわかりやすく!」「もっと丁寧<sup>ていねい</sup>に!」という要求があることを指しています。それに応えるわけで

すから、何から何まで相手の望み通りになるようにふるまう、という内容の言葉が入ることがわかります。二つ目の④の後には、「相手のために思い、すべてのことをやっであげる」とあります。これらの内容から、イ「至れり尽くせり」が入ります。相手に対する配慮<sup>はいりょ</sup>が行き届いて文句のない状態になっている様子、何から何までやっであげる様子を指す言葉です。

問六

B1 具体化 比較

現在、利便性の高いシステムに疑問符<sup>ぎもんふ</sup>がつけられてはいますが、この問題では利便性の高いシステムの利点について問われています。そのようなシステムの具体例が挙げられており、さらにその利点について述べているような箇所を探しましょう。8ページ下段に洗濯機<sup>せんたく</sup>、冷蔵庫、食洗器、ガス給湯器、お掃除ロボットなどが列挙されており、それに続く部分で「厄介な仕事を任せることが出来れば、自分のことに専念できます」と利点が説明されています。したがって、ウが正解となります。ア「お互いにやるべきことが明確になる」、イ「暮らしが豊かになる」、エ「新しい機能が次々と生み出される」がそれぞれ誤っています。

問七

B1 関係つけ

自動運転について「勝手に運転してくれるクルマって、いかも……」と油断しているとどのような状況におちいつてしまうのかを考えましょう。具体的には、同じ段落で「システムの独りよがりな行動に一方的に付きあうだけ」『ただの『荷物の一つ』として運ばれるような気分にもなる』と説明されています。次の部分には、「ごはんを食べさせてくれるロボッ

ト」の具体例が続いています。これらの内容を抽象的にまとめた部分を探すと、8ページ下段に「わたしたちはなにも手が出せず、ただやつてもらっただけです」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

# 問八

## B1 具体化 関係つけ

「ボタンの掛け違い」とは、対処を誤ったために不都合や食い違いが生じることを指します。ここでは、人間が便利に生活するためにロボットを導入したのに、人間がロボットの采配で生きながらえているような状態になり、立場の逆転が起こっていることを指しています。これと同じ形を探すと、――線⑤の後に、利便性を追求して便利なものが身の回りに増えたのは確かなのに、自分の生活が思ったほどよいものに感じられていない、という内容が書かれています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

# 問九

## B1 抽象化

ハサミは素朴な道具ですが、ずっと使われ続けています。その理由について筆者は10ページ上段で説明していますが、この部分は★より後にありますから、別の場所を探します。すると、8ページの上下段で同じような内容を説明していることがわかります。人間の手の柔らかさとハサミの硬い鋼が、お互いに補い合っとうまく機能している、という内容です。この関係について、筆者は「イ」の6行前で「しなやかな関

係性」と説明しています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

# 問十

## B1 関係つけ 比較

抜けている文をもとの場所にもどす問題です。ヒントは抜けている文自体にあります。指示語や接続語、キーワードに注目しながら、どのような内容が書かれた部分と抜けている文がつながるかを検討しましょう。また、必ず実際に文をもどして読み直し、前後の内容が問題なくつながるかどうかを確認しておきましょう。

「その方が効率的で、暮らしも豊かになる」という表現から、直前に「効率的」「暮らしが豊かになる」につながる内容があることがわかります。「ウ」の直前に書かれている「厄介な仕事を任せることが出来れば、自分のことに専念できます」がその内容に当たっています。

# 問十一

## B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文のどの部分をもとに作られた選択肢かを考え、実際に本文にもどって照らし合わせ、正誤を判断しましょう。

ロボットは人間から仕事を奪ったり、人間らしさを奪ったりすると指摘されることがありますが、筆者は具体例を出してそれに反論しています。本文前半のファミリーレストランの「猫の顔をした配膳ロボット」がそれにあたります。このことと一致しているアが正解となります。イ「人間が気づいていない能力が秘められている」、ウ「人間が不寛容や傲慢に

もみえる厳しい要望をつきつけて改善を求めることが必要な場合もある」、エ「技術を確実に身につけることが重要」がそれぞれ誤っています。

3

A 1 知識

①⑤の語について、類義語を語群から選んで漢字に書き直す問題です。使われている漢字ごとの意味と熟語全体の意味、よくいっしょに使われる言葉や使う場面などについて、まとめて覚えておきましょう。

4

A 1 知識

( ) 内の意味に合うように慣用句を完成させる問題です。ひらがなで答えることに注意しましょう。それぞれ、どのような文脈で使われる言葉なのかということも合わせて覚えておきましょう。